

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業  
・**国際交流拠点形成事業**)

事業名：哈爾濱金代文化展

事業者名：新潟市歴史博物館

住所：新潟県新潟市中央区柳島町2-10

TEL：025-225-6111

FAX：025-225-6130

HPアドレス：<http://www.nchm.jp>



連携事業者名：哈爾濱市金上京歴史博物館

会場：新潟市歴史博物館

事業期間：平成21年6月1日～平成21年11月30日

## 1. 館の使命と本事業の関係

当館の使命は、新潟市や新潟市民を対象に、地域の歴史特性を明らかにし、歴史を媒介とした市民交流を行うことによって、市民の社会的活動や文化的活動に寄与することである。したがって、館では、地域に根ざし、新潟市ならではの活動に取り組んできた。

本事業は、ハルビン市と友好都市関係にある新潟市の博物館ならではの企画であり、両都市の博物館スタッフの直接的な協力作業を通じて実施した。市民にとって本事業は友好都市への理解を深めアジアの歴史への関心を高めるとともに、友好都市の歴史を理解することで新潟市の特色を再認識する機会にもなる。

## 2. 企画内容

### ① 事業目的

今年2009年は、新潟市と中国ハルビン市が友好都市提携をしてから30周年目にあたる。ハルビン市は、かつて中国の北半分を統一した金王朝の都が置かれた地であり、哈爾濱市金上京歴史博物館には、ハルビン市内の金代の遺跡から出土した資料が保管・公開されている。両市の友好都市提携30周年を機会に、ハルビン市や新潟市、哈爾濱市金上京歴史博物館と連携を図りながら、金上京歴史博物館所蔵の金代の資料を新潟市歴史博物館で展示・紹介し、両博物館の文化交流と、両市の友好促進を図る。

### ② 事業概要

哈爾濱市金上京歴史博物館所蔵の金代の資料 92 件を借り入れ、輸送し、新潟市歴史博物館で展示した。展示ではグラフィックパネルや映像等を作成し、中国金王朝についてわかりやすく紹介することに努めた。

また、出光美術館所蔵の陶磁器 10 件など、国内で所蔵している金代の資料も合わせて紹介し、金史研究における日本人先駆者であった三上次男の研究実績なども紹介した。

さらに、会期中には研究者を招聘し、講演会やシンポジウムを開催した。そのほか、楽しみながら市民に中国文化や金の歴史に触れてもらえるよう、中国の遊びや金代の遺跡から多数出土している銅鏡の製作体験なども行った。

### 3. 事業実績

#### (1) 事業の主な内容及び日程

- 展覧会の内容を固め展覧会ポスター・チラシを製作した。〔6/13～7/10〕
- 展示計画書を作成し、それに従って解説パネル・映像・造作物等の展示を制作した。〔8/11～9/6〕
- 出光美術館所蔵の陶磁器を集荷（東京→新潟トラック輸送）した。〔8/24・25〕
- 哈爾濱市金上京歴史博物館所蔵品を集荷（ハルビン→新潟空輸+トラック輸送）した。〔8/30～9/4〕
- 体験プログラム「中国の文化に親しむ」を開催した。〔9/19・20〕  
内容：中国の遊び・切り紙のしおり作り・ミニチュアの鏡作り・二胡の演奏・太極拳の演武
- 講演会「北方アジアの諸民族と日本の交流」を開催した。〔9/23〕  
講師：菊池俊彦氏（北海道大学名誉教授）
- 遼金西夏史研究会 10 周年の記念事業として新潟大学超域研究機構が主催したシンポジウム「金王朝とその遺産」を当館を会場に開催した。〔10/10〕
- シンポジウム「中国金の建国と女真族の社会」を開催した。〔10/11〕  
パネリスト：臼杵勲氏（札幌学院大学教授）・弓場紀知氏（京都橘大学教授）・村上恭通氏（愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター長）・三宅俊彦氏（専修大学兼任講師）・白石典之氏（新潟大学教授）
- 出光美術館所蔵の陶磁器を返却（新潟→東京トラック輸送）した。〔11/10・11〕
- 哈爾濱市金上京歴史博物館所蔵品を返却（新潟→ハルビン空輸+トラック輸送）した。〔11/15～20〕



哈爾濱市金上京博物館からの資料搬出



展覧会展示室内



シンポジウム「中国金の建国と女真族の社会」



体験プログラム：太極拳の演武

#### (2) 参加者の数

参加者人数	延べ	6,232 人
内 訳：展覧会見学	5,854 人	
講演会(9/23)	83 人	
シンポジウム(10/11)	115 人	
体験プログラム(9/19・20)	180 人	

### (3) 事業により作成した印刷物等

展覧会ポスター B2 1,500 部  
展覧会チラシ A4 30,000 部

### (4) 実施事業に関する新聞記事等

#### ○新聞記事

- 展覧会に際し、中国ハルビンから持ち込まれた展示品の輸入検査を、新潟税関が報道陣に公開した記事

新潟日報 平成 21 年 9 月 8 日 朝刊  
毎日新聞（新潟版）平成 21 年 9 月 10 日 朝刊

- 展覧会の開幕を伝える記事

新潟日報 平成 21 年 9 月 12 日 朝刊

- 展覧会の紹介記事

新潟日報 平成 21 年 10 月 5 日 朝刊 文化面

- 主な展示資料を紹介する記事

新潟日報 平成 21 年 10 月 15 日 朝刊 文化面  
新潟日報 平成 21 年 10 月 16 日 朝刊 文化面  
新潟日報 平成 21 年 10 月 17 日 朝刊 文化面  
新潟日報 平成 21 年 10 月 20 日 朝刊 文化面  
新潟日報 平成 21 年 10 月 21 日 朝刊 文化面

- 展覧会を見学した記者が展覧会の内容を受け、中国金王朝についてコメントした記事  
岩手日報 平成 21 年 10 月 23 日 夕刊

#### ○テレビ、関連誌等

- 展覧会に際し、中国ハルビンから持ち込まれた展示品の輸入検査を、新潟税関が報道陣に公開したニュース

NST 新潟総合テレビ 夕方のニュース  
UX 新潟テレビ 21 夕方のニュース

- 展覧会の開幕を伝えるニュース

NST 新潟総合テレビ 昼のニュース

#### 4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

本事業は、新潟市と友好都市関係にある中国ハルビン市との文化的交流をめざし、館の自主事業として開催した展覧会事業である。そのため、企画および資料の選定から解説文の作成、開催スケジュールの調整、資料の輸送に至るまで、新潟市歴史博物館と哈爾濱市金上京歴史博物館のスタッフおよび両市の関係者が協働・協力関係の中で直接実施した。これまで新潟と中国東北部との交流では経済や農業技術が中心であったが、本展覧会事業は、新たに文化交流を加える機会となった。見学した新潟市民からは、新潟市とハルビン市は友好都市であることは知っていたが、ハルビン市にこうした歴史があることは初めて知り、身近に感じられるようになったという趣旨の感想もいくつか聞かれた。

また、本展覧会が第三者を介さずに実施できたことで、日中の地方都市の中小規模館同士が、日中の制度や慣習の垣根を越えて直接展覧会を企画・開催する際のノウハウが蓄積できた。ただし、両博物館と市レベルでの企画であったことはそれなりの限界もあった。ハルビン市の権限で国外に持ち出せる資料に制限があり、また、両市の友好を背景に両市間を運行する直行便で輸送することを前提にしていたことから飛行機の貨物室の制約もあり、資料のランクや大きさ、数に制約があった。見学者からは展示資料が少ないことの不満も出された。

本展覧会の成果として、これまで日本人に関心が薄かった金史を紹介する機会になったことも大きい。見学者からはマニアック過ぎるとの意見もあったが、中国の歴史の中で金という国の存在を初めて知ったという意見も多くあり、金をテーマにした国内初の展覧会ということで、県外からの見学者も多く訪れた。このように中国史の新たな一面をPR することができたとともに、新潟大学および遼金西夏史研究会が企画に賛同し、関連するシンポジウムを独自に開催するなど、外部への広がりも見せた。

さらに、展覧会を機会に旅行会社・航空会社による現地ツアーが企画されるなど、現地の博物館や遺跡への関心が高まり、日本人向けの観光スポットとなる可能性を高めた。これが進展していけば、民間レベルでの観光・文化交流へと発展していくことも期待される。

日本海に面した新潟市は、その地の利もあり古くから中国東北部やロシア極東部の都市との結びつきが強かった。今回の展覧会は、そうした対岸の諸都市と歴史・文化をテーマとした研究や情報交換等をはじめとする文化交流を推進する際のステップとなった。

今後は、展覧会を通じて縁を深めることができた哈爾濱市金上京歴史博物館やハルビン市政府の関係部局とのネットワークを通じて、当館が文化交流の窓口としての機能を果たすように努め、そのための情報収集を行う。また、これを機に新潟市と結びつきが強い日本海対岸の友好都市や姉妹都市、交流のある都市との博物館交流を意識的に追及していきたいと考える。